



# 学習者の自律を育成するための アドバイジングスキルとその応用

～学習アドバイジングやスキルを活用した効果的学習支援の実践と研究～

## 研究シーズ概要

語学教育において学習者の「自律性」という概念は、1970年代にSelf-Access Learning Center (SALC)などの学習施設の普及に伴い、世界中に広がりました(Benson,2011)。語学教育での「自律」は学習者自身の学習への責任や学習管理能力など(Holec,1981, Little 1991)が基本的概念として用いられています。また、自律の段階(Nunan,1997)や学習者の成長軌道(Kato&Mynard, 2016)に応じた学習支援はメタ認知の観点からも重要です。国内においては現在本学が提携している神田外語大学が2001年に専任学習アドバイザーを配置した自立学習センターを設立し、以来、多くの大学でこれらの考えが理解されるようになりました。本学の英語学習施設SILCでも、多様化する学習者のニーズに応えていくために、学習アドバイジングやスキルを活用した効果的な学習の支援の実践と研究に取り組んでいます。

## 利点・特長・成果

学習アドバイジングは、学習者とアドバイザーの対話を通して、メタ認知(認知についての認知、俯瞰的に自分の学習を認知する)を養うとともに、学習効果や学習者の自律育成も期待されており(Kato&Mynard, 2016)、多様化する学習者のニーズに応えるアプローチとして、言語教育で幅広く受け入れられてきています。崇城大学では、2010年に語学のSALCを設立し、学習アドバイジングやSALC運営のノウハウを応用していますが、2014年には学科SALC、全学SALCを設立し、専門分野の学習にも応用しています。また、このスキルをコミュニケーション力向上に取り入れた様々な研修なども学内外で実施しています。

学習アドバイジングスキルガイドブック 第1版 (sojo-u.ac.jp)  
語学教育に限定されず、様々な学びの場における学習アドバイジングスキルとして応用がされています。

Benson, P. (2011). Teaching and researching autonomy (2nd ed.). Harlow, UK: Longman Pearson  
Holec, H. (1981). Autonomy and foreign language learning. Oxford: Pergamon.  
Kato, S., & Mynard, J. (2016). Reflective dialogue: Advising in language learning. New York, NY: Routledge.  
Little, D. (1991). Learner autonomy 1: Definitions, issues and problems. Dublin, Ireland: Authentik.  
Nunan, D. (1997). Designing and adapting materials to encourage learner autonomy. In P. Benson, & P. Voller (Eds.), Autonomy and independence in language learning (pp. 192-203). London: Longman.



## その他の研究シーズ

■個別の対話による学習支援を行うための教員研修(自律教育、メタ認知、動機づけ等の理論と実践)をはじめ、企業様におけるコミュニケーション促進のためのワークショップ(対話を通じた信頼関係構築に活かせるスキル)などを提供することが可能です。

## キーワード 学習者自律、メタ認知、モチベーション、対話、学習支援、コミュニケーション

### 本技術に関し、対応可能な連携形態(サービス)

知財活用	可	技術相談	可	共同研究	可
施設機器の利用	否	研究者の派遣	可	技術シーズ 水平展開	否

### 開発段階

5	第5段階	製品・サービス化(試売/量販)段階	2	第2段階	試作(ラボ実験レベル)段階
4	第4段階	ユーザー試用段階	1	第1段階	基礎研究・構想・設計段階
3	第3段階	試作(実証レベル)段階			

### SDGsの目標

4 質の高い教育を  
みんなに

